



いのちの日便り

2015.9.25
いのち推進
プロジェクト
NO. 6

自分のいのちを見つめて



9月10日の「一中いのちの日」では、いのちの『縦糸』に関わる活動として、誕生学アドバイザーのわだゆきこ先生を講師にお迎えして、誕生学講演会を行いました。わだ先生の講演をお聞きして、自分自身が生まれてくる力を再認識し、また、いのちの大切さやいのちを繋げる尊さを学ぶことができました。

生徒のみなさんの感想より

- ☆ ミルクをあげたりおむつをかえたりはするけど、何も話しかけないで動物の赤ちゃんを育てる実験では、1才になるとときには赤ちゃんが死んでしまったということだった。今自分がここにいられるということは、自分の周りの人のおかげなのだと思いました。
(1年1組 大宮 康生 さん)
- ☆ 今回お話を聞いて、妹が生まれてきたときにも母がどんな苦しい思いをして自分を産んでくれたのかわかっていたつもりでしたが、もっと深く考えることができました。自分の命は自分で守ろうと思います。
(1年1組 阿部菜々実 さん)
- ☆ 「いのち」というのは、ただめんどろを見るだけでなく、話しかけて、抱いてあげることで、今の自分がいるということや、3億分の1というすごい確率で生まれてきたことがわかりました。これからも生きていくことに感謝して生きていきたいです。
(1年2組 武田 虹来 さん)
- ☆ 胎盤とか羊膜とか、難しいお話ではあったけど、出産の痛みにたえながら、お母さんは産んでくれたのだと思うと、大事にされている感じがして、うれしかったです。
(1年2組 中村 文美 さん)
- ☆ 赤ちゃんは、生まれてくるときにいろいろな工夫をされていてすごいなと思いました。また、最初の赤ちゃんの大きさが0.1mmぐらいしかないことに驚きました。それが、一週間たつごとにどんどん大きくなっていくこともすごいなと思いました。今、私の身長が160cmをこえていることが不思議な気分になりました。
(2年1組 齋藤 怜奈 さん)



- ☆ 小さいときには、生まれてきたことを覚えているということを知っておどろきました。私は、小さいころの自分にもどって聞いてみたくなりました。そして、今、ここにいられるのは産んでくれたお母さん、だっこしてくれたお父さん、お姉ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃんのおかげだと思うので、感謝の気持ちを言葉や行動で示していきたいです。
(2年1組 八鍬ふたば さん)
- ☆ 自分の知らないところを知ることができてよかったです。赤ちゃんは、お腹の中で、たくさんのことをしていることがわかり、なんか、とてもすごいなあと思いました。
(2年2組 須藤 沙月 さん)
- ☆ 自分の命はどんなに大切なのか、人の命はどのようにして生まれてきたのかがよくわかりました。人の命は死ぬ気で生まれてきたものだから、粗末にあつかってはいけないこともわかりました。
(2年2組 桃谷 萌愛 さん)
- ☆ 様々なことで親に迷惑をかけてきてしまったけれど、それでも親は、僕のことをほおっておかず時には怒り時にはやさしく愛情を向けてくれたことを思い出しました。たしかに愛がないと人間は生きていけないと思いました。(3年5組 山川 竜希 さん)
- ☆ 今回のお話を聞いて命の大切さがわかりました。赤ちゃんはお腹の中で必死に生きているのだなと思いました。自分の命と他人の命を大切にしていきたいと思いました。
(3年5組 小川 千穂 さん)
- ☆ 自分の知らないことがたくさんあって、羊水を自分できれいにすることも初めて知りました。わだ先生が最後に「生まれてきてくれてありがとう。」とおっしゃったとき、自分の命をもっと大切にしようと思いました。
(3年6組 鈴木 菜海 さん)
- ☆ 自分も両親も、命をもらって生まれてくるまでの間にいろいろな不安や苦労があって、それを乗り越えて生まれてきたから、周りの人に精一杯感謝して、生きていきたいです。
(3年6組 田中 双葉 さん)

次回の「一中のいのちの日」は、10月1日(木)です

いのちの『縦糸』に関わる活動として、「被爆ピアノ」平和コンサートをPTA文化部・母親委員会との共催により開催いたします。
(プロジェクト担当)